

「第15回石川県書写書道教育研究大会集録」の発刊によせて

石川県書写書道教育連盟会長
第15回石川県書写書道教育研究大会長
藤 則 雄

石川県書写書道教育連盟は、幼稚園から大学に至るすべての学校教育が一体となって授業研究を中心に据え、大会開催を能登・金沢・加賀北部及び加賀南部で輪番方式として実践して参りました。

平成16年度にも各種の研究活動を行って参りましたが、特に、12月10日には「第15回研究大会」を松任市にて開催することが出来ました。

最近における教育問題や教育改革に伴い、教師の資質向上に特に力点を置き、児童・生徒の豊かな心の育成に即して、今後は全国大会での研究発表や今日的書写教育のホット・ポイント等をも討議してゆくこととしました。本年度は

研究協議会Ⅰ部：今日的課題

- ① 全国高校書道研究大会報告－田中 学先生
- ② 書写教育実践報告
 - ・ サマースクール「篆刻教室」報告－新谷幸一先生
 - ・ 文字意識を高める授業の試み－柿木千鶴先生

研究協議会Ⅱ部：公開授業とその整理会

- ・ 公開授業 (1) 小3年：書き初め「白いはと」－間野清美先生
- (2) 小6年：書き初め「自由課題」－長澤哲也先生
- ・ 公開授業の整理会

等として、真剣な討論と総括がなされました。

本「集録」は、この研究大会を主として集録したプロシーディングであります。

会員各位は、本誌をご参考にされ、本県の書写書道の更なる発展の一助ともされることを心から願っております。また、本誌へのご助言・批判を頂ければ誠に幸と存じております。

平成16年度における各種活動や研究大会の開催に多大なご尽力を賜った実行委員や本誌の刊行、本連盟の運営にご協力下さった各位、執中、石浦義彦理事長・中川晃成事務局長及び補佐された事務局の方々には心から感謝の意を表し、併せて、役員各位のご健勝・精進を祈念致します。

目 次

1. はじめに	1
2. 第15回石川県書写書道教育研究大会要項	3
3. 研究協議会Ⅰ報告	7
「報告・実践をもとに書写書道教育における今日的課題を考える」	
◇全国高校書道教育研究大会報告	
田中 学 (石川県立金沢伏見高等学校)	
◇実践発表レポート	
☆サマースクール『篆刻教室』報告	
新谷 幸一 (金沢市立小立野小学校)	
☆文字意識を高める授業の試み	
柿木 千鶴 (松任市立蕪城小学校)	
研究協議会Ⅰのまとめ	25
4. 公開授業報告	27
小学校3年 「書き初め」 一題材「白いはと」	
間野 清美 (松任市立蕪城小学校)	
小学校6年 「書き初め」 一題材「自由課題」	
長澤 哲也 (松任市立蕪城小学校)	
5. 研究協議会Ⅱ報告	
公開授業を受けて授業整理会	
研究協議会Ⅱのまとめ	37
6. 大会に参加して	39
7. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ	43
8. 平成16年度石川県書写書道教育連盟役員一覧	48
9. 石川県書写書道教育連盟規約	50

<学校名は平成16年12月大会時の名称>

第15回石川県書写書道教育研究大会

平成16年12月10日(金)

第15回

石川県書写書道教育研究大会

松任市民交流センター
松任市立蕪城小学校

大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
～自ら生活に生かせる確かな書写力をはぐくむ授業とは～

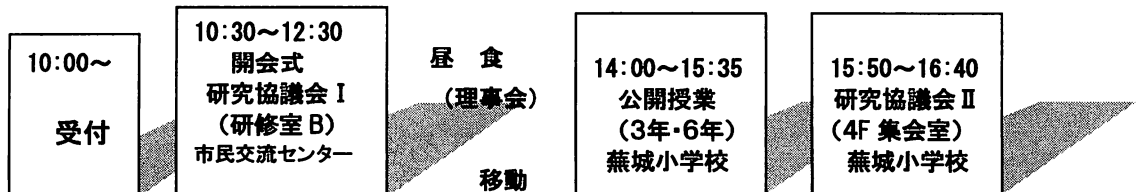
主催:石川県書写書道教育連盟

後援:石川県教育委員会

:松任市教育委員会

:石川県私立幼稚園協会

日程



(敬称略)

- 開会式**
- ・会長あいさつ
 - ・祝辞(石川県教育委員会・松任市教育委員会)

研究協議会Ⅰ

「報告・実践をもとに書写書道教育における今日的課題を考える」

全国大会参加報告

- ①全国高校書道教育研究大会 田中 学〈石川県立金沢伏見高等学校〉

実践報告

- ②サマースクール『篆刻教室』報告 新谷 幸一〈金沢市立小立野小学校〉
③文字意識を高める授業の試み 柿木 千鶴〈松任市立蕪城小学校〉

司 会：水上 真由美(石川県立金沢商業高等学校)

記 録：木之下 知子(金沢市立材木小学校)

12:30~13:30 昼食休憩・移動

理事会(4F 研修室A)

13:40~ 午後受付

公開授業(14:00~15:35)蕪城小学校

(敬称略)

小学校3年 (3F)

書き初め『白いはと』 14:00~14:45

授業者 間野 清美

小学校6年 (4F)

書き初め『自由課題』 14:50~15:35

授業者 長澤 哲也

研究協議会Ⅱ(15:50~16:40)

(敬称略)

研究協議会Ⅱ (4F 集会室)

【公開授業を受けて授業整理会】

助言者	松浦 維久子	(金沢教育事務所指導主事)
司会	堀 順一郎	(野々市町立菅原小学校)
記録	黒崎 美春	(七尾市立東湊小学校)
	浅井 晋	(小松市立那谷小学校)

研究協議会 I 報告

大会参加レポート

実践発表レポート

研究協議会のまとめ

第 29 回全日本高等学校書道教育研究会 京都大会 報告

石川県立金沢伏見高等学校 教諭：田中 学

今大会は平成 16 年 10 月 28 日（木）29 日（金）、京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」にて開催された。大会テーマは「感動のある授業をめざして」。

このテーマについて『京都大会集録』に以下のように記されている。「(前略) 生徒たちに 21 世紀を生きる力、つまり、自ら学び、自ら考え、生涯学び続ける姿勢をはぐくむとともに、我が国の伝統文化を学び、また他国の文化を理解することによって、現代社会の情報化、国際化に対応する力を付けさせなければなりません。そのためにも、我々書道科教員が、これまでの授業実践を振り返り、工夫改善に努めることが必要であり、こうした意欲的な研究の積み重ねにより、生徒たちが心を落ち着け古典と向き合ったり、自らのイメージをふくらませ、表現を工夫するような充実した授業が展開され、その結果、生涯にわたって書を愛好する心情が育ち、感性が高まり、書道の諸能力がより伸長し、豊かな情操を培うことができるのではないのでしょうか。本大会は、日々の授業の大切さを我々が学び合い、様々な取組を通して、どれだけ生徒たちの心を揺さぶり、感動を与えられるのか、について、ともに考え、研究したいと思います。(以下、省略)」

「無気力・無関心・無責任・無感動・無作法」といったいわゆる“五無主義”といわれて久しいが、いかにしてこの部分に斬りこんでいけばいいのか。そのヒントを得ようと思い参加してきた。ここでは第一日目に行なわれた「授業研究・研究協議」について書き留めておきたい。

今回、「授業研究・研究協議」は、四つの会場で行なわれた。

それぞれは以下の通り。

- A 「自作筆による漢字創作」—マイ・アダン筆 FROM OKINAWA—
京都府立鴨沂高等学校教諭 増川 陽子
- B 「平仮名を書こう」—漢字仮名交じりの書の制作過程における仮名文字の指導—
京都市立日吉ヶ丘高等学校教諭 万殿 伸昭
- C 「書と音楽の融合」—音楽選択生徒との共同作品制作—
京都府立亀岡高等学校教諭 平田 光彦
- D 「ガラス絵の手法による書」—漢字仮名交じりの書のフォトスタンドに—
京都府立乙訓高等学校教諭 松村 健一

主に参加したのは会場 C と会場 D である。

会場 B については、これまでも多くの実践報告がなされており、また時間の関係もあったため、今回は参加しなかった。

会場 A についても会場場所が離れていたため、本格的に参加できなかったが、大会集

録から「アダン筆」について紹介されている一部分を引用しておく。

「アダンは太平洋の海岸に広く分布し、琉球列島では奄美以南の島々の海岸やそれに続く低温湿地帯に生える植物で、沖縄ではお盆にその実を墓前に供えるなど、なじみの深いものである。

大学在学中に国文学科の教授が、江戸時代に上田秋成がアダンの筆を使用していたという発表をされ、その時アダン筆の存在を初めて知ったが、現在も作られていることは二〇〇一年の訪沖時に偶然知ることとなる。毛筆とは異なる使用感に興味を持ち、当初は主に自分で用いていたが、制作者の協力の下、授業で生徒にも使用させることが可能になった。

沖縄の浜辺に自生する植物で作られたという珍しさだけでも、生徒に関心を抱かせるには十分ではあるが、それ以上に生徒たちは、アダン筆の持つ独自の表現力に強い興味を示し、積極的に授業の中で自ら使用するようになってゆく。気根一本一本は言うまでもなく自然の産物であり、制作もすべて手作業であるため、意識的に均質を目指して作られている毛筆とは根本的にコンセプトが異なり、既成のアダン筆であっても同じ物は存在しない。使ってみないとわからない筆の特性に、初めのうちは戸惑っていた生徒が、筆と格闘するうち、次第にアダン筆での制作に嵌ってゆく。

さらに、制作者の指導の下、二年前からは、沖縄で切り取ったアダン（気根）をクール便で送っていただき、筆作りの実習も授業に取り入れた（※制作手順は図を参照）。

これまでも、毛筆ではないもの（例えば、竹や葉っぱ、ダンボールなど）で書くといった授業は見てきたが、当校で行なわれている沖縄校外研修といった学校行事と連携した内容には感心した。

さて。

芸術科目である「音楽」「美術」「書道」は同時開講されることが多く、同じ『芸術』であっても実際には科目をまたがった授業はあまり行なわれていないのではないかと。そこで「音楽選択者との共同作品制作」という点に惹かれ、主に会場 C に参加したのである。始めに、発表対象は3年生であることを断っておく（発表者である平田氏自身も『3年生であるからこそできる。というのは、1、2年生でのコンピュータ操作が大きく関係してくるから』と述べていた）。

内容は「書と音楽によるマルチメディアアートの制作」であり、「グループ・ワークによる他者とのコラボレーション（共同制作）」を行ない、最後に「鑑賞会やインターネットでの公開による、作品発表」まで行なう、というものであった。

これらは18時間を費やして行なわれた単元であったためビデオ上映での発表であった。その18時間の内訳は以下の通り。

- 1時間目…単元内容の説明（作品例の鑑賞）、グループの形成（書道・音楽両方の選択者を含む、4名以内のグループ）、作品テーマの設定（題名等）→内容を考えていく（書作品にする言葉、作曲のイメージなど）

- 2 時間目…試書
- 3 時間目…作品制作（書体、散らし、色などの工夫）
- 4 時間目…音楽選択者とのディスカッション
- 5 時間目…作品制作（中間発表を意識して）
- 6 時間目…音楽選択者とのディスカッション、コンピュータに画像として保存
- 7 時間目…コンピュータに画像として保存
- 8 時間目…中間発表の準備（WEB ページ作成の手順、発表打ち合わせ）
- 9 時間目…中間発表会（批評カード記入）
- 10 時間目…作品制作や画像取り込み
- 11 時間目…ディスカッション（批評カードを読んで）
- 12 時間目…作品制作や画像取り込み
- 13～15 時間目…作品制作、ディスカッション、WEB ページの作成
- 16 時間目…発表の打ち合わせ（発表者の決定）
- 17 時間目…作品の確認、発表の練習
- 18 時間目…発表会（鑑賞会）→テーマ説明、工夫した点、上映、感想記入。

発表会の最後に、各自「マルチメディア表現について」「他者とのコラボレーションについて」「書的表現について」「芸術表現について」「全体の感想」をまとめる

実際「亀岡高校書道教育のページ <http://www1.kyoto-be.ne.jp/kameoka-hs/>」において作品を鑑賞することができる。

ビデオに写る生徒の動きは活発で、主体的に意見交換や思考活動を行っていた。その結果が作品に見事に反映されているように思える。WEB で公開されることで意欲が高まり、実際に掲載されることが誇りとなっているようで、ここに「感動のある授業」のひとつの成果を見た。

最後に会場 D について記しておく。ここでは、参加者自身がガラス絵の手法を体験した。その手法とはフォトスタンド（会場では 100 円ショップで購入したものが使われていた）のガラス面に水彩絵の具を用いて、裏文字——これは自分の半紙作品を裏返しにするだけでよい——で文字を書きあげるものである。ガラスの上からなので容易に裏文字であってもトレースすることができる。また、失敗しても水で容易にふき取ることが可能であり、水彩絵の具が乾いたらその上から油絵の具で背景を塗って仕上げることもできる。自分の作品がインテリアとして機能することで『書』を通じて、心豊かな人生が過ごせ、生涯学習へとつながっていくようにも思えた。

*

以上のように、様々な視点から「感動のある授業」を行なおうとする意気込みを感じるとともに自分自身の今後の授業に非常に参考になった。

ii. 印材と用具

印材については小学生の子でも簡単に彫ることができる柔らかい石を用意し、印刀で彫ることにしました。爪でも傷が付くほどの柔らかい石があったので、3年生でも簡単に彫れると思い、その石を用意しました。

印刀で彫る際、大人であれば手に持って彫ることも可能ですが、3・4年生の児童もいたので、より安全な印床を使うことにしました。印床を使うことで手首が固定し、手元が安定するので、力の入れすぎや石のぐらつきで手を切ることもなく、彫る時により正確さが増すと考えました。

iii. 転写の仕方

転写の仕方については、黄色のマジックインキによる転写方法を用いました。この方法は毎年、金沢市の小教研にて森本小の大浦努先生から教わっているやり方です。

鉛筆でもペンでも何でもいいのですが、下書き用紙にデザイン（印稿）を書きます。それをコピーして印の刻面に張り合わせます。テープで動かないように固定した後、紙の裏面を黄色のマジックインキで塗っていきます。その後10秒ほど待って、ぐっとコピーを刻面に押し当ててからそっと外すと印稿が印面に転写されているという方法です。



この方法では筆で印稿を作らなくてもよいので、簡単に印稿作りができます。また、黄色のマジックインキで印面に転写させるので、一度作った印稿を簡単に、そのまま転写させることができます。鏡を見ながら、何度も修正をくり返して転写する必要がないので時間も短く済みます。

このアイデアのおかげで、2時間で印を仕上げることができました。

3. 篆刻教室の様子

当日参加したのは、3年生4人、4年生2人、5年生2人、6年生1人、保護者8人の計17人でした。

最初に、簡単に篆刻の仕方を話した後、実習に入りました。篆刻の話をしている時には心配そうな顔も見られたのですが、実際に石を配って実習に入ると、生き生きした表情ではんこ作りに取り組んでいました。

はんこ作りで一番時間がかかったのは、印稿作りでした。印稿作りには35分ほどの時間を見ていたのですが、実際には1時間以上かかっている参加者がたくさんいました。また、印稿の転写にはコピーが必要なのですが、職員室と作業している教室が離れているため、コピーにも予定より時間がかかってしまいました。



- ・はんこも作れたし、思い出に残る色紙もできたのでよかったです。
- ・またやりたいです！
- ・自分だけの印ができとてもうれしく思います！とても楽しかった！
- ・印稿のデザインを考えるのが大変だったけれど子供と楽しい時間が取れて良かった。
- ・25年ぶりに習字を書いてとても楽しかったです。習字を習いたいと思いました。
- ・はんこを作るときがむずかしかった。
- ・個人ではなかなか体験できないてん刻をすることができ、親子とも大変楽しかったです。私に絵心があればもっと楽しかったと思うのですが・・・。ありがとうございました。
- ・はんこをつくるのがおもしろかった。
- ・おもしろかった
- ・こんな機会はめったにないので本当に良かったです。
- ・はんこを作るのが楽しかったです。
- ・むずかしかったけど楽しかったです。
- ・はんこを作っている時、こまかいところがあってつかれたけど楽しかった！うまく作れてよかったです。
- ・細かい作業で肩がこりましたが、満足のいく作品ができました。
- ・てん刻は初めてでしたが、夢中になってやりました。とても楽しかったです。

5. 授業導入へ向けての課題

はんこ作りは図工の授業でされている先生もいます。総合的な学習の時間などでもできると思いますが、文字意識を高めたり、日本の文化である書に対する理解や愛情を育てたりするという点から見れば書写の内容であると考えます。

6年生の教科書の最後にも、「はんこを作ろう」というページがあり、彫刻刀やカッターを使つてのゴム印の作り方が紹介されています。自分の印を持つことは、書字に対する意欲付けになり、文字を書くことへの関心も増すと思われます。

今回の篆刻教室を通して感じたことは、印刀で石を彫ると、彫刻刀と違って角がきりっと出て、よりしっかりした印ができるということです。3年生が彫っても2時間かからずに彫ることができたので、ゴム印と変わらない時間でできると思われます。また、本来、書作品に押す印は石を彫ったものが多く、より書という文化の理解にもつながってくるであろうと考えます。はんこを作るのであれば、ぜひさせてみたいと思います。

しかし、カッターよりは安全だと思われる印刀でも、石を左手で持ちながら彫るのは危険で難しいと思うので、印床のように石を固定させるものあるいは固定する工夫が必要です。また、本来の学習内容の授業の中でいかにゆとりの時間を作り出すかという工夫も考えて行かねばなりません。学習内容習熟の時間数に α の時間を作り出せるような年間計画の工夫が必要であると考えます。

文字意識を高める授業の試み —国語・書写・総合の授業を通して—

松任市立蕪城小学校
柿木 千鶴

《はじめに》

昨年度までの本連盟の研究の中で、書写書道における“基礎・基本”とは「書く」という技能・技術を体得することにより確かな書写力を身につけることであり、そこで獲得した書写力を使い日常の書く活動を展開することが“豊かな心”につながっていくのではないかと話し合った。そんな思いで設定されたサブテーマ～自ら生活に生かせる確かな書写力を育む授業とは～について、具体的に子どもの姿や意識を追って迫ってみたい。多方面から“文字”を考えることで新たな気づきが生まれ、子供たちの文字意識を高めることができれば、と計画を立て実践してみることにした。

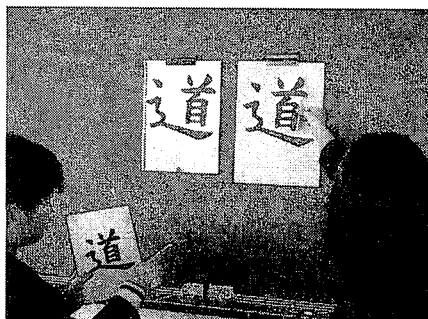
《前期までの書写学習》

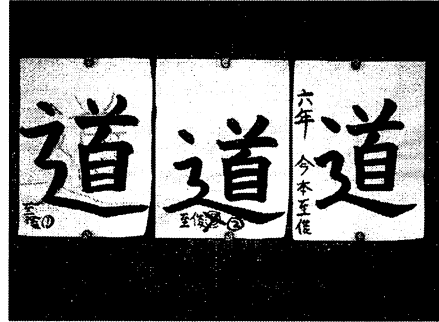
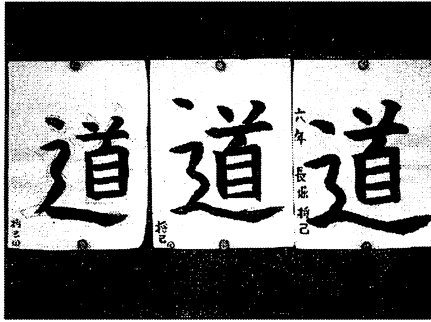
与えられた課題はきちんとこなし、時間をかけて取り組む子ども達が多い6年生である。しかし一方、自分たちで考えて行動することが苦手で、常に指示を待っているという第一印象を受けた4月。ていねいに形よく文字を書くことができる子が多いので、基礎基本を大切に課題解決型の書写学習を行ってきた。例として『道』と『湖』の授業を取り上げる。

『道』の学習では、「によう」のある文字の組み立て方と、「しんによう」の書き方を理解することをねらいとしている。そこで、授業では「しんによう」と「首」の部分の組み立てを視覚でとらえさせるために点画ピースを使用した。

まず、「しんによう」と「首」の部分をわざと離れた文字のサンプルを提示し、どこがどうおかしいのかを子ども達に考えさせた。すぐに二つが離れすぎていることに気づいた子ども達はどんな組み立て方になっているかを教科書で調べ点画ピースを操作した。この作業をみんなで見合い、『道』の文字の組み立て方を学んだ。

次に、「しんによう」の形をとる部分練習をした。2画目と3画目の接筆とはらいがポイントと考え、師範して見せたあと用意した練習用紙を配った。





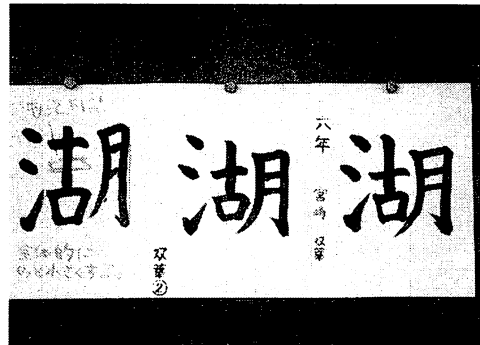
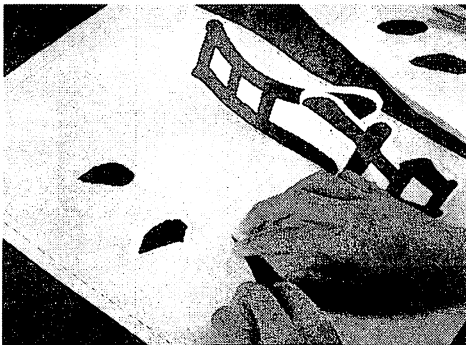
『湖』の学習は、三つの部分の組み立てと、「さんずい」の書き方を理解するのがねらいである。まず、

1. 試書・・・全員で筆順を確かめた後、教科書を見ないで『湖』を書いてみる。
2. 自己批正・・・教科書を見て、自分で直したり気づいたことを書き込んだりする。
3. 話し合う・・・各自の課題を出し合い、共通課題に気づく。

ここで、ふだんは練習用紙や半紙での練習にうつるが、各部分の組み立てを視覚と作業で理解することが大切だと思い、点画ピースを各自で組み立てる時間をとった。点画ピースは前単元『道』で一斉授業に使用して効果的であった。

ここでの点画ピースは半紙大に印刷してある『湖』の文字を自分で切り取って作成する。それを、第一画目の“、”だけ印刷してある台紙に並べてみて教科書と比べ、よりよい並び方へと直していった。このとき子ども達は「さんずい」の間隔が今まで思っていたのとは違うことや、「古」と「月」の部分が下で重なっていることなどに気づいていた。具体的な操作を通して、ふだん考えないようなことにも目が向いたと思われる。

次時で、この時作ったシートを手本にして練習・まとめ書きをした。



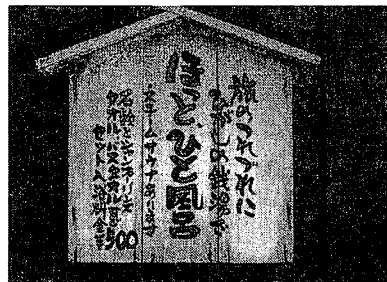
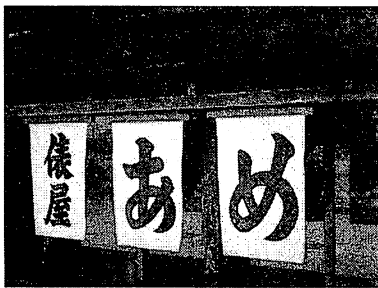
このように基礎・基本を大切にされた書写学習を行いながら、普段のノートの文字やレポートの文字なども気をつけて書くように指導した。7月には平和週間の取り組みで平和について考えたあと、筆の文字で“平和のうちわ”を作成した。“笑顔”“心”などの文字を一生懸命に書いていた子どもの姿と、自分だけのうちわが出来上がったときの嬉しそうな顔が印象に残っている。

《後期の活動にからめて》

夏休みが過ぎ、運動会が終わったら前期が終わり後期が始まる。6年生は後期に総合で“金沢探訪”や“ユネスコ世界寺子屋運動”に取り組む事を計画していた。

*街で出会った文字

かねてから“街で出会った文字”を授業に取り上げて文字について考えてみたいと思っていたので、夏季休業中は“金沢探訪”で訪れるであろう金沢の街中でいろいろな看板や掲示物をカメラに収めた。金沢は、歴史のある文化の薫り高い街である。古きよき物を残す伝統工芸も盛んで、それが観光の目玉となるとともに市民の生活の中にも溶け込んでいる。その事を裏付けるように、九谷焼や輪島塗などの店の看板はそれぞれ趣向を凝らしながら趣のある書体で書かれていた。街のいたるところで篆書体をデザインした看板や、行・草書体で書かれたのれんなどを多く見つけることができた。美術館・歴史博物館といった公共の施設でも、看板の文字に特徴が見られた。金沢探訪の計画を立てるとき、“あめ”と大きく書かれたのれんのスライドによほどインパクトがあったのか、ほとんどのグループがこの老舗のあめ屋を見学場所を選んでいった。文字の持つ力の大きさを改めて感じた次第である。



*ユネスコ世界寺子屋運動

世界には、働かなければならなかったり学校が近くなかったりして、学校に行けない子どもが、1億1300万人もいます。そして学校に行けず大人になり、文字の読み書きができない人が8億6000万人もいます。世界寺子屋運動は、このような子どもたちや大人が「学びの場＝寺子屋」で読み書きや算数を学べるように、教育のチャンスを支援する運動です。・・・
(日本ユネスコ協会連盟ホームページより)

このような趣旨で行われている世界寺子屋運動のプロジェクトに参加することになり、子ども達は寺子屋が置かれた国々のことを学び始めた。カンボジア・バングラデシュ・ネパール・ベトナム・インド・アフガニスタンの様子を知らせるDVDを見て、世界寺子屋運動の趣旨を知った。どの国の様子を見ても、まず“文字の読み書き”の大切さと、読み書きができるようになった時の喜びが伝わってくる。“識字率”を上げ、学ぶことができる人が増えることで働くチャンス・人と関われるチャンスが増える。それが貧困からの脱出とひいては世界の平和につながると思われる。自国の文字を大切に、正しく学ぼうとする寺子屋の生徒達から“文字の大切さ”を改めて教わった気がするし、書写で学んでいることと根底で繋がっているようにも思える。

子ども達は、書き損じはがきを募集するためのリーフレット作りをすることで世界寺子屋運動に参加することになっている。このリーフレット作りは、おもに情報機器を用いて作成することとなるが、相手に伝わる文字の工夫が必須である。ここでも、書写学習で学んだ文字意識が生きて働くことになると思われる。

《文字と心理状態の関係》

子ども達の書く文字とその心理状態には深いつながりがあるように思う。以前、友達の悪口や中傷を書き連ねた落書きが頻発し、その文字を分析したことがある。どの字も同じような形で、原型をかなり変形して使っている文字が多く、それはまた、最近の女の子達が好んで使う字体であった。この文字については、兵庫教育大学書写書道研究室の小竹先生による解説が的を得ていると思われる。

(以下、ホームページより)

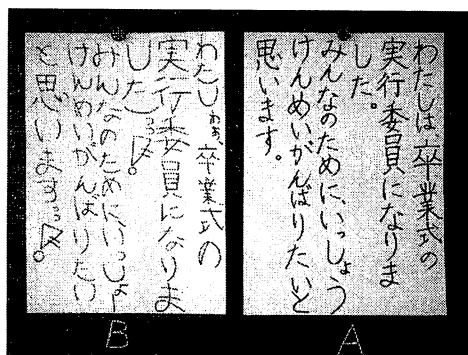
八〇年代に初頭に注目された「変体少女文字」、いわゆる丸文字が消えて久しいが、いま再び、少女たちの間で、手書き文字のデザイン統一が行われている。原型を極端にデフォルメした踊っているような文字。HAYARI系文字マスターノートによれば、たとえば、こんなガイドになる・・・

「け」の左は「普通は内側に曲げるけれど、ここは反る」・・・結果、「け」はカタカナ二文字の「ノナ」を寄せたような形となる。また「ん」は英文字の「n」に近いデザインで「はらわず」に止めると反るはハヤリ系の基本！しっかりマスターしてね」と指示がある。

通信ネットワーク社会で、なぜ直筆なのか？ 個人志向と多様化の進む時代に、なぜ皆が同じフォーマットに従おうとするのか？ きっと少女たちにとっては、多くの友達と、淡い関係で群れていることが重要なのだ。群れの維持のためには、自分たちだけの社会で共通に認識されるコードが必要である。文字は目に見え、かつ、手書きであれば、自由に書体開発ができる。それを使うことで、お互いが群れからはぐれていないことを確認し合える。ハヤリ系文字の正体とは、ユニホームとしてのルーズソックスと同じく「仲間のあかし」なのかもしれない。

この“変体少女仮名”は最近のアイドルたちのホームページでも探すことができる。アイドル達の“直筆メッセージ”を見ると、どのアイドルも恐ろしいほど同じ字を書いている。そしてまた、文の内容とのアンバランスを感じさせるものが多い。授業では、アイドル達の手書きの文字や“変体少女仮名”で書かれた文を見て文字の与える印象について子ども達に考えさせることにした。いろいろな文字を提示しながら、自分がどんな文字の使い手になりたいかを考えさせたい。

文字の書き手が読み手を意識するときそれは単なる記号にとどまらず、“相手意識”が生まれ、“伝え合う”媒体となりうる。その媒体を通して自分は何を伝えたいのか。行き着く先は自分の生きる姿勢にまで繋がっていくのではないかと思う。



このように、いくつかの学習を柱とすると、それが互いに“文字”を通して繋がっていることがわかる。それを実際の流れの中でどのように授業を組み立て、子ども達とどんな話し合いをしていったのかを次に紹介したい。

文字意識を高め、生活に生きる書写力をつけるために

文字のおこり

- ・世界最古の文字の起源
- ・文字の役割
- ・世界のいろいろな文字

5000年前に初めて文字が出来たこと、文字は記録と伝達の役目を果たすことなどを押さえる。

国語

漢字の起源と変遷

- ・漢字の起源
- ・姿を変えていく漢字
- ・自分の名前の漢字のものは？

甲骨文字の発見・それからの文字の変遷を大まかに知らせる。
金文・篆書・隷書・楷書などの言葉を教える。

文字文化の大切さを知り
文字に興味を持つ

生活に生きる
書写力

総合

学ぶことの意義を知り、自分の思いを発信する

どんな文字をどう書きたいか考える

書写

ユネスコ世界寺子屋運動

パート1 知る

- ・識字率とは
- ・学びの場の提供
- ・私たちにできること

世界寺子屋運動の趣旨を理解させ、同時に“文字を持つ”ことの大切さに気づかせる

パート2 調べる

- ・一つの国を選び調べよう
- ・調べたものをグループでまとめよう

気候風土文化などを調べる

パート3 発信する

- ・リーフレットを作ろう
- ・全校のみんなにも呼びかけよう

書き損じはがきを募集するリーフレットを作成する相手に伝わる文字の工夫をする

基礎教科書の学習を通して、筆づかいや字配りについて問題解決型の学習を続ける

街で出会った文字1

- ・看板の文字をみてみよう
- ・伝達機能としての文字

思いを伝えるものと単なる伝達との違い

街で出会った文字2

- ・手書きのメッセージを見て
- ・自分を伝えるには変体少女仮名を見て文字が与える印象を考える

篆刻に挑戦しよう

- ・篆書体を知ろう
- ・名前の文字を彫ってみよう

自分だけの書き初め

- ・新年の思いを言葉にしよう
- ・文字の起源を調べ自分で工夫して書こう

お手本どおりに書く書写ではなく、文字の意味や成り立ちを知り、課題を解決しながら書初めの作品作りをする

卒業に向けて

- ・大切にしたい言葉
- ・卒業式の壁面を意識して一人ひとりの思いを込めた壁面を作らしたい

6年2組 国語科書写学習指導案

指導者 柿木 千鶴

1. 単元 生活の中に生きる文字
2. 目標 生活の中で見かける文字について考えることで、今後の生活において文字を大切に
にする気持ちを養う。

3. 指導計画

- 第1次 「街で出会った文字」から効果的な文字の使い方を考える。(本時)
- 第2次 毛筆で学習したことを生かし、自分らしい文字について考える。

4. 本時の学習

(1) ねらい

いろいろな字体の文字は目的によって使い分けられていることを知り、自分を表現するためにはどんな文字を書いたらいいか考える。

(2) 展開

学 習 の 流 れ と 児 童 の 活 動	配時	教師の支援 (○) と 評価 (●)
1. 「街で出会った文字」の映像を見る	10	○後半は次時で学習予定
2. 本時の目標をつかむ	10	○感想や意見などを自由に発表させる。
街の中で見かける文字には、どんな特徴があるだろうか。		
3. 「街で出会った文字」からわかったこと や考えたことを話し合おう。 ・和風のお店は看板も筆文字が似合うしね。 ・標識など、情報を正確に伝えることを目的にしているものはゴシック体が多いのかな。 ・見た事あるよ。 ・いろんな字体で書かれているね。 ・中国の昔の文字みたいだな。 ・大きな会社や裁判所は石に彫ってあるよ。	15	○自分と友達の見解を比べながら考えさせる。 ○代表的な写真の拡大を黒板にはる ○漢字の起源を簡単に説明する。
5. 本時のまとめと次時の予告	10	● 文字が長い歴史の中で伝えられてきたことがわかる。 ● 文字に関心を持ち、生活の中で使われる文字について考えようとしている。
看板だけでなく、生活の中で見かける文字は、伝える内容によって変わるね。		

6年2組 国語科書写学習指導案

指導者 柿木 千鶴

1. 単元 生活の中に生きる文字
2. 目標 生活の中で見かける文字について考えることで、今後の生活において文字を大切に
にする気持ちを養う。

3. 指導計画

- 第1次 「街で出会った文字」から効果的な文字の使い方を考える。
- 第2次 毛筆で学習したことを生かし、自分らしい文字について考える。(本時)

4. 本時の学習

(1) ねらい

いろいろな自体の文字は目的によって使い分けられていることを知り、自分を表現す
るためにはどんな文字を書いたらいいか考える。

(2) 展開

学 習 の 流 れ と 児 童 の 活 動	配時	教師の支援 (○) と 評価 (●)
1. 「街で出会った文字」の映像を見る	5	○前半は前時で学習済み
2. 本時の目標をつかむ	10	○感想や意見などを自由に発表させる。
相手を意識した文字の使い手になるに はどうしたらいいだろう。	10	○ 変体少女仮名で書かれたアイドルの文を読む。 ○これをただ単に批判するのではなく、受ける印象から考えさせたい。
3. アイドルの書く字をみて考えよう。 ・みんな同じような文字だ。 ・中身とのギャップを感じるな。 ・お店の看板がこんなだったら、お客さん来るかなあ。 ・落書きもこんな字だったよ。	10	○ 一つは整った文字、一つは変体少女仮名で同じ文章を書いてあるものを見せる。 ● 文字によって受け取る印象が違うことに気づく。
4. 二通りのポスターを比べよう。 ・ちゃんとした字で書いてあるほうが頑張る気持ちが伝わる。 ・一つはふざけて書いてあるように見えるよ。	10	● 自分の書く文字について、今日の学習を踏まえて感想を書く。
5. 本時のまとめ	10	
これからどんな文字の使い手になっていきたいかを考えよう。		

《授業を進めていく中で》

*文字の起こり

「世界の文字の起源と日本の文字」(小峰書店)という本を参考に授業を進めた。人はなぜ、何のために文字を使うのか?とか、世界最古の文字は何年前?とかいう問いかけに子ども達は考えながら答えていた。世界のいろいろな“こんにちは”を書いて授業を終えた。

*漢字の起こりと変遷

甲骨文字の発見をマンガで書いたページがあったので、それをみんなで読んだ。そのあと甲骨文字が金文→大篆→小篆→隸書→楷書と変わっていったことを資料から読み取った。最後に自分の名前の成り立ちを漢字字典で調べた。

*街で出会った文字(1)

スライドを見ながら授業を進めた。前時で学んだ“篆書体”などいろいろな種類の文字を看板の中に発見し、なぜそこでその文字が使われているのかを考えた。歴史ある店の看板の文字は古い形の文字が使われていることや、和風のお店には手書き文字が使われていることなどを子ども達は発見していた。それは、お店のイメージを表すものだからであろうと話合った。また、道路標識や銀行の看板は“情報の伝達”が目的だからゴシック体など誰にでもわかる文字で書かれていることも見つけていた。

逆に、「ほっと一風呂」の看板がゴシック体だったら?」「そんなお風呂やったら入りたい気持ちにならん」との答えが返ってきた。では、「道路標識が甲骨文字だったら?」「どこにいけばいいかぱっと見てわからないと困る。」などと、子ども達と話し合いながら授業を進めることで“伝達機能としての文字”“表現機能を持つ文字”の存在を深く考えることができたと思う。

*街で出会った文字(2)

アイドルのホームページからひらった変体少女仮名によるメッセージは、“え〜!”という声が起こった。“なんか、ふざけとるみたいや。”などと表現した子もいた。2種類の“実行委員がんばります”のポスターについても、“文字によって受ける印象が違う”“変な字で書いてあったら、本当にやる気あるのかと思ってしまう”といった感想が多く聞かれた。

こうして順を追って学習していく中で、子ども達は“誰にでも読みやすい文字を書くことの大切さ”や、“思いを伝えるにはきちんと書いたほうがいい”などということを改めて考えたようである。この流れで書き初めの自由課題の取り組みに入っている。新年の新たな気持ちを表すにふさわしい文字の書き方について、自分で考え解決してゆく新しいスタイルの学習ができたらいいと思う。

書き初めの課題決めに際しては、先輩のインタビュービデオを見ることから始め、“自分らしい言葉”を一人ひとりが考えた。“お手本がなくても書ける”をめざし、自分の課題を明確につかんで解決していけるようなワークシートを作って授業を進めている。

《子ども達の感想》

*印象に残っていること

- ・漢字の歴史で、甲骨や金文、篆書などの文字でだんだん文字が変わってきたということを知ったのが一番心に残っている。
- ・昔の甲骨文字の勉強が心に残っています。今とはぜんぜん違う文字だけど、なんとなくわかるし、形になっていっておもしろいなあと思ったからです。そんな昔から文字があるなんて不思議で、どんな人がどうやって考え出したのかな？と思いました。
- ・文字の書き方でふんいきが変わるのが一番心に残っています。文字で性格がわかりそうだなと思いました。
- ・篆書や隷書なんて文字の種類があるなんて知らなかった！習字みたいな字のことを楷書というなんて知らなかったし、高校生が書いている字は“変体少女仮名”なんて嫌な名前がつけられているなんて知らなかったし、日本でも篆書や隷書の文字の種類を使っていたなんて知らなかった。だから少し文字に興味をもった。
- ・一番心に残っていることは、「街で出会った文字」です。スライドで街にあった文字を見たときが一番楽しかったです。今まで知らなかった文字の歴史や工夫がわかってよかったです。
- ・看板の授業が心に残りました。一文字一文字に心がこもっている看板がいっぱいあるからです。看板なんかどうでもいいとか思っていたけど、これからはこの文字にもいろんな意味があるんだな！って気持ちで見たいです。
- ・相手に気持ちを伝えるときは、手書きで読みやすい文字を書くことが大事とわかった。「文字」にはいろんな名前があることがわかった。
- ・文字にはいろいろな種類があってすごいとおもった。また、文字には「イメージ」を引き出す力があるとわかった。

*これからどんなことに気をつけて文字を使っていきたいか

- ・今は、パソコンなどがあつたりするけど、気持ちを伝えたいときはやっぱり自分の手で書いたほうが思いがこもると思うから、使い分けられるといいとおもいます。
- ・書いた人の気持ちや工夫を考えて見たり、読んだ人にちゃんとわかってもらえる文字を書きたいです。
- ・たった一文字にでも意味があるので、大切に使いたいです。
- ・相手に気持ちが伝わるようにていねいで読みやすい字を書く。
- ・文字のいろいろな種類を、そのイメージに合った使い方をしていきたいです。
- ・仲がいい友達とかにはいつもの字でいいと思うけど、年上の人とか気持ちを表すときなどは、ていねいに書けばいいと思った。
- ・そのときにあった文字を使っていきたい。

《今後に向けて》

今回、「文字意識を高める授業の試み」として生活の中から文字をひらったり、世界に目を向けたり、文字の歴史を考えたりと多方面から文字について考える授業にとりくんでみた。

街の看板から文字について考えたときは、ねらいどおりの反応が返ってきて、子ども達の中に“文字意識”の基礎は出来ていると確信した。この“文字意識”は言語を獲得するように自然と身につくものと思われるが、いつ、どこでどんな文字に出会うかによってその子の“文字意識”は変化するのではないかと思う。“絶対音感”のような“絶対文字感”というものが存在するかはわからないが、意識のどこかに“規範となる文字”が刻まれるときがあるようにも感じる。正しい文字・美しい文字を与えることで一生涯その子に“絶対文字感”をつけることが出来るとしたら、小学校段階での文字教育の重要性を感じる。

子ども達の心理状態と文字の乱れとの関係についても、多くの先生方の指摘するところである。逆に、文字を大切に書く気持ちを育てることで心の安定を図ることも可能なのではないかと思う。

書写の時間が軽んじられ、授業自体が予定通り行われなくなっているとのニュースが全国で聞かれる。しかし、子ども達の心の成長と文字を書くこととの関係の深さを考えたとき、今こそ子ども達や先生方と文字教育について考えるべきなのではないかと強く思う。“確かな学力”が叫ばれているが、その基本となる“書く力”に今一度スポットをあててみることは、遠回りのようで実は最も近道に違いないと感じている。



司会 水上 真由美 (金沢商業高等学校) 記録 木之下 知子 (材木小学校)

(1) 全国大会参加報告

全国高校書道教育研究大会

石川県立金沢伏見高等学校 田中 学

大会テーマ「感動を与える書写書道教育をめざして」のもとに発表された、授業研究、実践の報告であった。

1. 書と音楽の融合 ～音楽選択生徒との共同作品制作～

京都府立亀岡高等学校 平田 光彦 先生

芸術科において「書道」、「音楽」それぞれを選択している生徒が共同で授業を行う実践。テーマに対してそれぞれの選択者が、それぞれの方法で迫っていく。それらを交流し、相互評価、ディスカッションを重ね、鑑賞会を開くというもの。詳細はホームページに。

2. ガラス絵の手法による書 ～漢字仮名交じりの書のフォトスタンドに～

京都府立乙訓高等学校 松村 健一 先生

漢字仮名交じりの書を毛筆で練習。その後の発展として、フォトスタンドを制作。

水彩絵の具・筆

100円ショップのフォトスタンド

} 文字を裏文字で書き、まわりに油絵の具で描いた絵、又はお気に入りの写真

3. 感性をゆさぶる取り組み

『デジタルで書のイメージを広げる』奈良県立大宇陀高 大嶋 哲雄 先生

『書と写真の出会い』京都府立綾部高 今井 裕子 先生

書と写真をコンピューターで出会わせ、一つの作品として融合させる。文字の色や配置に変化をつけ、表現の幅を広げることで、生徒の感性をゆさぶる取り組み。伝統的な書道と現代的なコンピューターを融合することで、生徒の興味や意欲を喚起し、書道のおもしろさ、奥深さを実感できるようにしている。

その他にもうちわ、お皿、お酒のラベル等…様々なものを書く試みの報告があった。紙面の都合上載せられないのが残念である。

質疑応答より 「それぞれの実践での生徒の声は？」

・・・実際の反応については資料がないのでわからないが、実際に自分もやってみると、楽しい。だから、生徒も十分楽しめていると思う。

そのほかにも上越教育大学押木先生より音楽と書道の融合について、氷田先生からは遊びに偏らない、苦しみから生まれる書の喜びについて等、有意義なお話を聞くことができた。

(2) 実践報告

育友会行事「篆刻教室」を通して

金沢市立小立野小学校 新谷 幸一

「夏休みは親子で学校へ行こう！」という育友会の活動を通しての実践発表であった。最近文房具屋にも増えてきた絵手紙用の篆刻セットを思い出し、親子で気軽に楽しめる篆刻教室を計画したとのことである。2時間という短い時間の中に、篆刻、色紙作り…と様々な作業があったので、いかに速く簡単に、そして楽しくできるかということに大変苦心されたようである。また、初心者であり、小学生でもあるということから、安全面にも十分配慮されており、育友会の活動としてだけでなく、授業においても実践できるすばらしい報告であった。

また、新谷先生の報告には篆刻教室のその後もあった。この教室に参加した児童から暑中見舞いが先生のもとに届き、しっかりと自作の印が押されていたという。また、夏休みの自主課題としてたくさんの絵手紙を書き、ファイリングし、提出してくれた子もいたそうである。さらにそのファイルにはご両親も特別参加されており、家族で絵手紙、篆刻を楽しまれたことが伝わるものであった。まさに生活に生きる書写教育となったすばらしい実践発表であった。

文字意識を高める授業の試み ～国語・書写・総合の授業を通して～

松任市立蕪城小学校 柿木 千鶴

文字意識を高め、自ら生活に生かせる確かな書写力を育むために、年間を通してしっかりと計画を立てられ、力をつみかさねていらっしゃることが伝わるすばらしい実践発表である。

子どもたちの生活体験、生活環境を十分考慮され、アイドルのホームページからの引用、街角で見つけた毛筆体等…さまざまな素材を発掘し、授業に生かしておられ、会場のみなさんも聞き入っていらっしゃる様子であった。

もちろん基礎基本を大切にされた書写の学習も丁寧に実践されており、「道」の学習では子どもたちがつまづきやすい「しんによう」と「首」の組み立てを点画ピースを使って視覚でとらえさせる取り組みを報告していただいた。また、「湖」の学習では、すべてを点画ピースで組み立てるのではなく、一画目だけが印刷してあるワークシートを活用することで、ねらいを明確にし、どの子にもそのねらいが達成できるようにとの配慮をされていた。先生の実践から、様々な場で文字意識は培われ、高めていくことができるもの…日々の授業、生活の大切さを会場のみなさん全員で、改めて感じたように思う。

質疑応答ではたくさんの先生方がお二人の実践に敬服され、感想を述べてくださった。また、氷田先生からは、簡単にして基本を要領よく押さえる、文字の基本を短い時間で習得していくための、教師の工夫の必要性についてのご示唆をいただいた。

公 開 授 業 報 告

研 究 協 議 会 Ⅱ 報 告

実 践 発 表 レ ポ ー ト

研 究 協 議 会 Ⅱ の ま と め

3年1組 国語科（書写）学習指導案

2004. 12. 10（金）5限

指導者 間野清美

1. 単元名 「むすび」の筆使いを知ろう
書きぞめ「白いはと」
2. 目標 「結び」の筆使いを理解して書こうとする。
これまでに学習した筆使いに気をつけて、書き初めを書こうとする。
書写で学習したことを生活に生かす。
3. 指導にあたって
 - ・3年生になって初めて学習する毛筆である。文字については、3年当初から文字の必要性を話し、相手を意識してきちんとした文字を書くように注意をしてきた。また、毛筆の授業の導入期には、用具の使い方・姿勢・準備や後始末の基本的事項をていねいに指導してきた。これまでは、基礎・基本を大切に教科書の題材に添って、漢字（二、十、日、犬、月）カタカナ（ビル）ひらがな（にじ）と学習を進めてきている。前単元の「にじ」の学習では、漢字の固さに対して、ひらがなの柔らかさ、丸みなど始筆の入り方や筆使いの違いを学んだ。「は」の結びの筆使いは、児童にとって難度の高い学習であるが、うまくできるようになればその達成感は大きく、初めての「書き初め」に満足するだろう。
 - ・児童33名は、明るく素直な子どもたちである。児童の中には、ひらがなの読み書きが十分でない児童もいるが、毛筆の授業を楽しみにしており生き生きと活動をしている。その子たちが活躍できる場として、また、お互いを認め合う温かい雰囲気の中で学級になるよう毛筆の時間を大切にしてきた。一時間の授業で、自分の上達を見ることが出来る毛筆の授業にはどの子も意欲的である。成果を発表し合う場では、自分の伸びや友だちのがんばりに満足した嬉しい表情が見られる。
 - ・本活動で前時同様、書き初め用紙を半分に切った用紙で「はと」を練習する。「は」の結びは、紙が接していない穂の面が紙に接するようにして運ぶ筆使いのため、書きにくいので、筆を立て、筆先にリズムをつけて穂先の向きを変えて書くようにする。本時に出来た「はと」と前時に書いた「白い」とをつなぎ合わせることで、次の時間に、一枚の長い書き初め用紙に「白いはと」と書く期待感をさらに持たせたい。

4. 指導計画(総時数6時間)

第一次 半紙(書き初め用紙半分大)に書く。(2時間)

第二次 書き初め用紙に書く。(3時間)

第三次 生活に生かす。(1時間)

次	ねらい	主な学習活動	評価基準
一次 (2)	結びの筆づかいを理解する。	半紙(書き初め用紙半分大)に「白い」を書く。 結びの筆づかいの特徴を知る。 半紙(書き初め用紙半分大)に「はと」を書く。	結びの筆づかいの特徴を理解し、進んで練習をすることができる。
二次 (3)	これまでに学習した筆づかいや行の中心などに気をつけて、書き初め用紙に書く。	書き初め用紙に「白いはと」を書く。	書き初めを集中して練習し、課題にそった批正ができる。
三次 (1)	生活に生かす。	友達に宛てた年賀状を正しく整えた文字で書く。	これまでに学習したことを生かして、年賀状をていねいに書くことができる。

5. 本時の学習（第一次の2時）

(1) ねらい 結びの書き方の特徴を理解し、結びの筆づかいに気をつけて書き初めを書く。

(2) 展開

学習活動	時間	児童の意識の流れ	教師の支援◆と評価◇
1. 前時の復習と本時の課題を知る。	3	「はと」を書いてみよう。 空書きをしてみよう。	◆ひらがなの筆使いの特徴を思い出させる。
2. 試書と自己批評	5	*手本なしではうまく書けない。 *「は」の曲がるところがむずかしい。	◆試書は残しておく。 赤チョークで印をつけさせる。
3. 本時の目標をつかむ。	2	結びの筆づかいを知ろう。	
4. 「結び」の筆づかいを知る。 ◎ビデオ	10	1・2・3のリズムで書く。 1のところまで筆を止めないで、一気に運び、2から3へは、力を入れすぎないで、右下へ向かって運ぶ。 筆の軸は回さない。	◇結びの筆使いを理解している。
5. 「結び」の部分練習をする。	10	練習用紙を使って練習をする *筆を立てるよ。 *リズムをつけて書くよ。	◆自己批評しながら取り組むようすすめる。 ◆机間指導をし、個別に支援をする。 ◇結びの筆使いに気をつけて「は」を書いている。
6. まとめ書きをする。	10	試書と比べてみよう。 *じょうずに結びが書けたよ。	
7. 本時の振り返りをする。	5	「白い」と合わせてみよう。 *くっつけるとりっぱだ。 *書き初めは大きくていいな。 *書き初め用紙に早く書きたい。	◆試書と比較し、自分の伸びと友だちのがんばりに気づかせ次時への意欲を持たせる。

6年3組 国語科（書写）学習指導案

12月10日（金）6限

6年3組教室

指導者 長澤哲也

1. 単元名 自分だけの書き初め

2. 目標

- ・新しい年を迎えるにあたり、自分の決意を表す言葉を選び、書き表そうとする。
- ・選んだ言葉の漢字について意味や成り立ちを調べ、書き表そうとする中で、字配りの課題に気づき解決しながら書き表すことができる。

3. 指導にあたって

本単元では全員が一律の手本を書く書写学習ではなく、現在の心情に即した言葉を選んで書く自由課題による書写学習となる。そのため、授業を行うにあたって以下のような問題点があると考えた。

1. 子どもたちが自分自身の書きたい言葉を見つけることができるか？
2. 子どもたちが選んだ言葉の手本が用意できるか？
3. 子どもたちが自分の学習課題を見つけ、解決することができるように教師が支援できるか？
4. 選んだ言葉を十分に表現する力量を持っているか？

そこで自分なりにその解決に向けた支援を考えることにした。

《1. について》

四字熟語、ことわざなどの図書を利用し、いろいろな言葉を調べて自分の心の中にある思いを表す言葉を探すための時間を設けることにした。もちろん、言葉は定型のものではなく自分でつくってもよいことにした。この時間には卒業期であることに目を向けさせ、未来、夢などといったプラス思考のイメージを与えることも手だての一つと考えている。

《2. について》

指導者自身が一人ひとりに応じた手本を用意できれば簡単に解決できることではあるが、私自身を含めて書道の心得のないものにとってはいささか難しいことである。そこで書写教科書の巻末に各学年配当（3年以上）の漢字の毛筆体が一覧として使われているので、その中に含まれる漢字についてはそれらのコピーを利用して子どもたちが自作の手本を作ることにした。1・2年生の漢字・ひらがな、中学以降の学習漢字、常用漢字については教科書体を基本にした手本を作り利用しようと考えている。

《3. について》

課題によってその難易度がずいぶん変わると予想されるが、6年書写での学習をふまえたとき、その課題は「字配り」に集約されることになる。本単元ではそのすべてに気をつけてということではなく、そのうちの文字の中心に、あるいは、漢字と平仮名の大きさに、というように課題を1つに絞り込んで書くことを意識させたい。そのため、「字配り」における課題を目に見えるものとして提示し、試し書きの批正を行うときに「自分の課題は何か？」を考えさせて活動させて

いきたいと考えている。

また、その解決の手だてとして、クリアシートや練習用紙を用意して、自己解決の手段を用意するとともに、同じ課題に取り組んでいる友だちとの相互批評ができるような場も設けたいと考えている。

《4. について》

3. の問題とも連動する部分ではあるが、ここでは、書写の基本となる筆づかいの問題ととらえることとする。これについてははね、はらい、おれといった運筆の基本となる部分の見本と筆づかいのコツを掲示し、いつでも確認できるような環境を整えることで解決しようと考えている。

自由課題による授業を行うことはたいへん難しいことと考えている。しかしながら、書道の心得がないごくふつうの学級担任が取り組むにはどうしたらよいかという点について自分なりに工夫できることがあると考えて、提案的に本単元を行ってみたいと考えている。

本学級の子どもたちは自己を表出したい思い（力）をもってはいるがなかなかうまく表現することができないでいる。表現する楽しさを十分に感じていないのか、学級・学年の人間関係の問題なのか、自己を表す技術に自信がないのか、その原因は様々であろう。様々な機会を通して少しでも一人ひとりの思いを表出する機会を与える・用意することが今の子どもたちには必要であろうと感じている。

このように考えていくなれば、書写の時間を文字を書くことを学ぶ時間であるという枠にとどめることなく、文字を書き表す自己表現の時間としてとらえる必要が出てくる。ことに6ねんにおける書き初めは絶好の取り組みだと考えたい。これまでの学習を生かして書くという視点（書写的なねらい）とともに、自己の思いを自己の持つ技術で精一杯表出するということにもこだわって指導したいと考えている。

4. 指導計画（総時数 7 時間）

	指導の流れ	◇支援と◆評価
第1次 自分の気持ちを表す 言葉を決めよう (2時間)	1時 言葉を決めよう 年の初め、卒業に当たっての気持ちを どんな言葉で表したらいいのでしょうか。 ワークシート(資料1)に書いてみましょう	◇書き初め用紙の大きさにふれ 4～5字で表すように指示する。 ◆自分の気持ちを表す言葉を図 書などを参考に決めることができる。
	2時 手本を作ろう ワークシートにお手本を作りましょう。 コピーの文字を参考に筆ペンでお手本 を書きましょう。	◇お手本書きの用紙は複数枚用 意し、書き直しができることを 伝える。

	見本の文字と自分の字を見比べて注意して書くところを赤で書き入れよう。	◆書き表したい言葉の文字の特徴をとらえてお手本を作ることができる。
第2次 自分で決めた言葉の練習をしよう (3時間)	1・2時 言葉をわけて練習しよう (本時2時) 書き表したい文字のどんなところに注意したらよいかみつけましょう。 どんなことに注意して書けばよいかを見つけるために、試し書きに気がついたことを書きましょう 今日の課題と練習の成果を発表しましょう。	◇練習用紙を使いやすいように工夫して練習することを伝える。 ◇アドバイスをするコーナーを設けたり、机間指導をしたりしながら個別の課題に対応する。 ◆自己の課題を解決するように練習し成果を的確に評価しようとしている。
	3時 書き初め用紙に書いてみよう 2時間の練習を生かして書き初め用紙に書いてみましょう。 1枚の用紙の中にどのようなバランスで書くとよいか考えて書きましょう。	◇長尺の用紙で書く場合の文字の配置に特に注意するよう指示する。 ◆前時までの練習を生かして、書き初め用紙にあわせた文字の配列を意識して文字を書こうとする。
第3次 気持ちをこめてまとめ書きをしよう (2時間)	1・2時まとめ書き(2時間続き) 自分だけの書き初めのまとめ書きをしよう。 書き初めに表したかった気持ちを作品解説にしよう。	◇自分の課題を思い出し、休み中の練習を生かして書くように意識づけをする。 ◆気持ちを表すことを毛筆だけでなく、硬筆にも生かすようにしていたか。

5. 本時の学習（2次の2時）

(1) ねらい

・自分で選んだ言葉について、学習のめあて（課題）を決めて毛筆で書き表す。

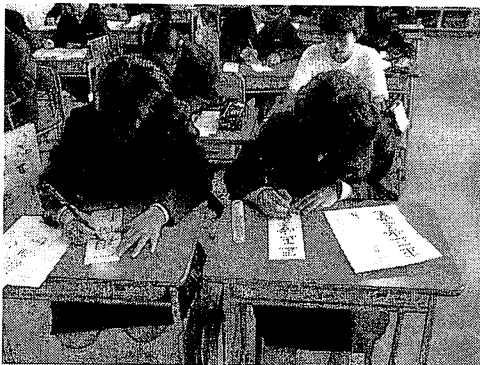
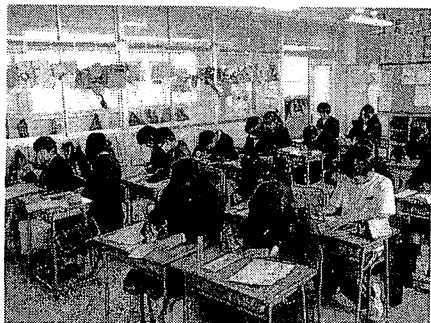
(2) 本時の展開

学習活動	時間	児童の意識の流れ	教師の支援◇と評価◆
本時の学習活動を知る	5	<p>〈今日は後半の言葉を練習しましょう〉</p>	◇前時の学習を想起し、学習の取り組みの仕方が同じであることを知らせる。
試し書きをする。	10	<p>書き表したい文字のどんなところに注意したらよいかみつけましょう。</p> <p>〈試し書きをして、自分の課題を見つけましょう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心がそろっていないな ・バランスがおかしいな <p>〈どんなことに注意して書けばよいかを見つけるために、試し書きに気がついたことを書きましょう〉</p>	◇いくつかの課題を書くことが予想されるが、「字配り」の課題に目を向けるようにアドバイスをする。
自分で見つけた課題を意識して練習する	20	<p>上下・左右の字配り</p> <p>文字の中心</p> <p>筆づかい 運筆</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">クリアシートで</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">練習用紙で</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">アドバイスコナーで</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">友だち同士で</div> </div>	◇複数の課題を持っている場合にはもっとも気をつけたい課題を意識するように声をかける。
本時のまとめ書きをして成果や課題を発表しよう。	10	<p>今日の課題と練習の成果を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心に気をつけて練習した ・大きさがうまくそろわなかったのだから次できるようにがんばるぞ。 	◇自分の課題にあった練習方法を選択できるようにコーナーを設ける。 ◇課題解決のための練習を適切に選ぶことができるよう机間指導をする。
			◇今日取り組んだ課題と自己の評価をわかりやすく話すように指示する。 ◆自己の課題を解決するように練習し成果を的確に評価しようとしている。

6. 授業風景

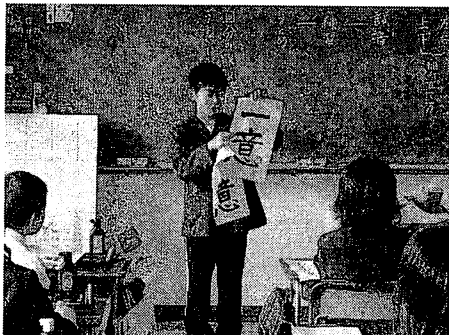
1 次の 2 時

前時に決めた書き初めの言葉の手本づくりをしている様子です。



2 次の 1 時

言葉の前半の練習の成果を本時のまとめとして発表している場面です。

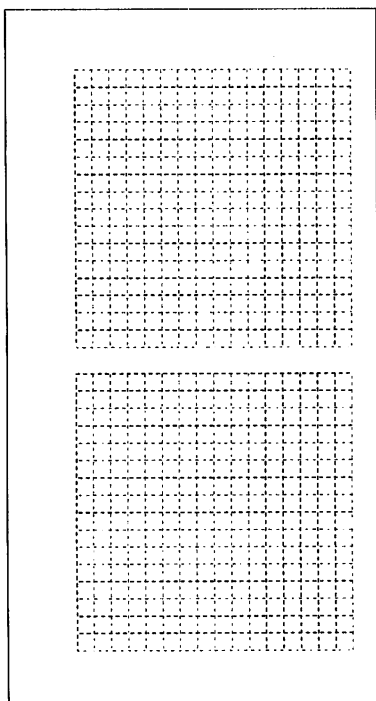


3 次 1 月 1 1 日 (火) 5 ・ 6 限

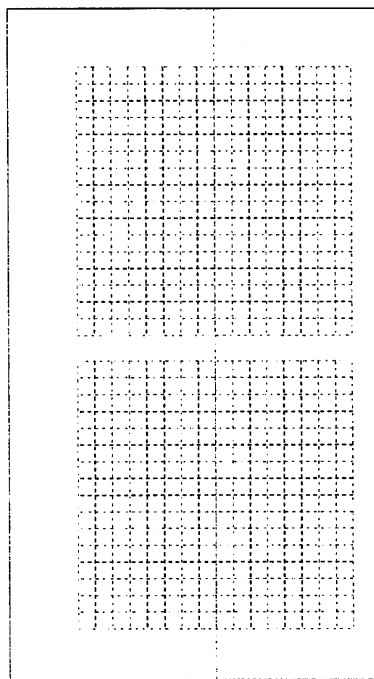
これまでの練習をふまえて、まとめ書きに取り組んでいる様子です。



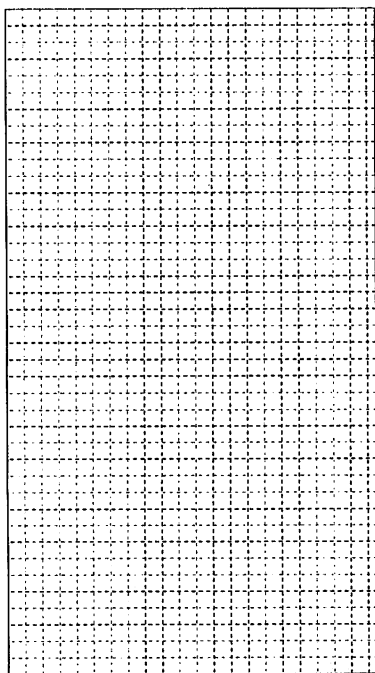
資料3 二文字練習用紙①



資料4 二文字練習用紙② (中心線入り)



資料5 三文字練習用紙



司会 堀順一郎（菅原小学校） 記録 黒崎 美香（東湊小学校）
助言者 松浦維久子（金沢教育事務所指導主事） 浅井 晋（那谷小学校）

◆3年生 書き初め「白いはと」

授業者(間野先生)より

- ・「結び」を理解させるために、水黒板・ビデオ・部分用紙などを手立てとして使用したが、書かせる時間が少なかった。やはりたくさん書かせることが大切なのではなかったか。
- ・空書きで失敗してしまった。「書いて回す」がうまくいかなかった。教科書の写真で振りかえさせてもよかったのでは。
- ・筆先について細かく教えられなかった。
- ・子どもは全体的にがんばっていた。

2. 参観者より

- ・「見て欲しい」という子どもの言葉があった。子ども自身に上手になった自覚があったから出た言葉。だから授業としてはよかった。
- ・教師と子どもの人間関係がすばらしい。
- ・評価が上手に取り入れられていた。
- ・3年生は基礎基本の時期。課題を与えて指導して行くことが大切。
- ・一般的な傾向としては、書写が軽んじられているのではないか。国語科の一部である。
- ・課題の持たせ方として「一番書けなかったところ」ではなく、例えば「むずかしかったところはどこか？」と聞き、課題として拾い上げていけばいいのではなかったか。
- ・筆洗いの水、作品入れなど、学校で一貫した指導がなされていた。

◆6年生 書き初め「自由課題」

1. 授業者（長澤先生）より

- ・自由課題というものが6年生に合っているのか、学校教育の中で書写をすることの意味を考えながら、技術的な面と学級作りの面の両面から取り組んでいる。
- ・子ども自身が選んだ言葉を書かせたいという思いで、ヒントをもらいながら進めることができた。「上手に書く」という部分ではだめかもしれないが、自分が選んだ言葉へのこだわりを持って、集中して書いていたように思う。
- ・自由課題は難しいと感じたが、一生懸命書く姿や生き生きとした活動を見せてもらっている。

2. 質問・感想

- ・課題を上手に見つけていたが、レベルの高い課題だったように思う。課題をどのように把握し、評価したらよいのだろうか。
- ・楽しく活動していた。基本の重視と無駄のない指導を大切にしたい。見ること、書くこと、その間の考えることが大事で、書く、書く、書くでは無駄である。自分の選んだ言葉を伝えて、感動できる言葉がよいだろう。
- ・自由課題では、4つの文字を選ぶのが難しく、特に数字が入るとバランスをとりにくく、練習方法も難しくなる。4文字についての作文を硬筆で書くとよいだろう。
- ・筆順や太さ・濃さなどで教師の指導する部分があってよい。
- ・字の太さなどは書道的な面であって、小学校では書写的な面に重点をおけば良い。グループ別の教え合いができると良いが、人間関係作りが大切である。
- ・学級経営から考えて、心の中にあるものを外に表現するという面で良い授業だった。書きたい言葉を選んで書くということは、子どもの思いにそっていい良かった。
- ・言葉を選んで思いを書くときに、字源を調べるなどの指導はあったのか。また、課題を見つけれない子への支援はどうしたら良いのか。

○授業者からの返答

4文字を選ぶ時には、ビデオを見ながら人の思いを聞いた。平易な言葉に思いがこもることを理解し、自分が考えている最近のことで、難しいながらも自分の言葉で表現していた。字の成り立ちを意識させたかった。

3. 助言者より

丁寧な指導で、自己課題の書写の時間がうまくいく。基礎基本は3年からの積み重ねであり、確認しながら指導すべきである。小さい字がお手本になりにくかったのではないか。それぞれの観点を子どもたちがどれだけ自分のものとしていたかを自己チェック法で知ると良い。練習用紙を1枚1枚取りにいくよりも、見通しを持ってまとめて持ってくるほうが良い。評価については、自分で見て、友達の評価も得て、先生からも得るのが良い。毛筆と硬筆の上手な文字は一生の宝である。

大会に参加して

第15回石川県書写書道教育研究大会に参加して
熱い思いを感じて

金沢市立西南部小学校 青木 陽子

初めて書写書道教育研究大会に参加させていただき、諸先生方の書道教育に対する熱心な思いを強く感じました。

私自身を振り返れば、小学校の低学年から中学校1年生まで習字を習っていたものの、毛筆・硬筆とも綺麗とは言い難い字です。それでも、当時は正座をして心落ち着かせ、半紙に向かう時の凛とした気持ちが好きで、喜んで習い事に通った事を覚えています。社会人になり綺麗な字に憧れてペン字を習おうとしたこともありました。ずっと続けていればもう少し綺麗な字が書けたらうに・・・とよく思います。

そんな私が教育現場で週1回書写を教えています。正直申しますと他の教科より教材研究は少ないです。そこで、今大会に参加させていただき一つでも学びたいと考えました。実際に、授業をみせていただくと、その細やかな指導は素晴らしかったです。教師側が子ども達に身につけさせたい力をしっかりと考え、一人ひとりに応じた声かけや指導をされていたように感じました。そして、子ども達もその思いに応えるように一生懸命に筆を持っていたようでした。私の教室でも、書写の時間になると、子ども達は不思議と姿勢が良くなり丁寧な字を書きます。普段落ち着きに欠けるような子もじっくりと取り組むことが出来ます。今の子ども達も私が小さかった頃のように、落ち着いて字を書くという事を楽しんでいるのかもしれない。「字形が整った」とか「はらいが上手く書けた」とか、全員が自分の上達を実感し喜びを得ることが出来る事が良いのかもしれない。慌ただしい学校現場でこれから大切にしていかなければならない時間のよう感じています。

また、研究協議会も白熱した意見が出され、「書」に携わる先生方の溢れ出る思いを感じました。低学年の硬筆から、字を書く決まり（右→左とか先に書く方が短いなど）をしっかりと教えることが大切だという事、基本を重視して無駄のない指導をする事など、他の教科同様に基礎・基本を大切にしていって積み上げていくことが話されていました。今日学んだことを今後の授業に、しっかり生かしていきたいと思っています。

第15回石川県書写書道教育研究大会に参加して
実践発表、公開授業から感じたこと

松任市立松南小学校 平木 裕子

柿木先生の実践発表について、まず、点画ピースを使って、「しんにょう」と「首」を離れたバランスの悪い文字のサンプルを提示することで、子供たちに二つが離れすぎていないことを気づかせる方法は、子供の試し書きからそのことを気づかせるよりも着眼点が明確化した方法だと感じた。次に、「湖」の学習でも点画ピースを用いることで、子供たちは「さんずい」の間隔や「さんずい」「古」「月」の三つの配置など、漠然と見ていた間隔やバランスについて点画ピースをおくことで、じっくり考えることができたようである。そして、第一画目を台紙に印刷してやることで、どの子にも同じスタートラインに立つことができる配慮がなされていた。

また、“変体少女仮名”については、ただやみくもに否定するのではなく、街で見かける文字の特徴を考えさせたり相手を意識した文字の使い手になるにはどうしたらいいかと問うたりすることで、だれにでも読みやすい文字を書くことの大切さを考えさせ、思いを伝えるためにきちんと書いた方がよいという考えを持たせることができた。これからも“変体少女仮名”なるものがファッションのように存在し、なくならないにしても、この授業から学んだことを生かして、TPOで使い分けられることのできる子供たちが育っていくように思う。小学校段階の文字教育の重要性について述べる柿木先生の実践に共感する所が多かった。

間野先生の公開授業では、試し書きとまとめ書きを比較し、自分の伸びを気づかせる点では、「おっ。」という歓声があがるほど伸びがよく見られ、子供たちは成就感や満足感を得ることができていた。手本を見ずに自分の力で試し書きをすることで、手本を見たとき自己批評がしやすくなると感じた。そうすることで、本時の目標がはっきりして練習の意欲が増し、目標を持って部分練習を行うことができる。それから試し書きとまとめ書きとの差が歴然としているために児童自らが自分の伸びを発見することができ、友達のがんばりにも気づきやすくなる。手本なしで書いた試し書きと手本とを比べることで、点画のバランス、とめ、はね、払いなどよく着目できるようになることがわかった。

長澤先生の授業では、午前の柿木先生の実践報告を受けての取り組みで、書初めを書く意欲が増すように、そして心を育てる書写をという意味で自由課題による書写学習を行っていた。手本を作るといった画期的な授業作りであった。どの子も自分の選んだ課題ということとても熱心に取り組んでおり、子供たちの真剣なまなざしと集中力が印象的であった。手本については特に工夫がなされており、書に自信のない私にも参考になるものであった。手本は書写教科書の毛筆体一覧や1、2年生の漢字・ひらがな、中学以降の学習漢字については教科書体を基本にして作り利用していた。それらを切り貼りし、さらにそれを見て筆ペンで書いて手本を作るというものであった。各自、自分で課題を決め、自分で手本をつくり、練習していく。最後に作品としてまとめ書きをしたときの満足感は大きいに違いない。自分の書きたい題材を持つということは子どもの書く意欲を高める効果がある。

最後に、「お手本をよく見て書きましょう」と言うのではなく、手本をよく見るためのアプローチの仕方を学ぶことができた。以上、簡単に感想を述べたが、参加して学んだことを今後の実践に役立てていきたい。

第15回 石川県書写書道教育研究大会 に参加して

石川県立中島高等学校 出村礼子

平成16年12月10日(金),松任市市民交流センター,松任市蕪城小学校において、「基礎・基本をふまえて,豊かな心を育てる書写書道教育」をテーマとして,研究大会が開催されました。

午前の部は,研究協議会Ⅰ「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」

①全高書研報告(京都大会),田中教諭(伏見高等学校)がご報告されました。

大会テーマは「感動のある授業を目指して」で,授業研究の紹介をされました。「自作筆による漢字創作」,「書と音楽の融合」—音楽選択生徒との共同作品制作,「ガラス絵の手法による書」そして美術,音楽との融合などの紹介や,また先生がその場でフォトスタンドを制作してくださるなど,高校芸術科書道におけるたいへん興味深い内容の報告でした。

次に実践報告として,②サマースクール「篆刻教室」,新谷教諭(小立野小学校),③文字意識を高める授業の試み,柿木教諭(蕪城小学校)が報告されました。

②については,一口に篆刻といっても,用具・用材・文字(篆書)などの準備,指導が大変な上,時間も限られた中で各自参加された方が作品を完成されたことは素晴らしいことだと思います。中でも,子供さんが自作の印を持った喜びにより,夏休み中に絵日記風の絵手紙作品集を家族みんなで制作することまでに発展した所が印象的でした。

③では,生活の中に生きる文字について,ユネスコ世界寺子屋運動に関する活動と関連して,街で出会った文字,ポスター,看板,さらには,私たちにとっても興味深い社会現象でもある,TVアイドルのハヤリ系文字などを紹介してくださいました。これらの文字伝達機能として与える印象の違いを認識させ,子供たち自身が文字を書くことの大切さに気づいたことは素晴らしいことです。今後の書写教育に繋がっていくことを期待します。

午後からは会場を蕪城小学校に移して,小学校3年「白いはと」間野教諭,小学校6年「書初め」長澤教諭により,公開授業が行われました。

3年生のクラスでは,子供たち全員が楽しく,意欲的に毛筆に取り組み,明るく素直な子供たちを相手に教えておられる先生をうらやましく思いました。

6年生のクラスでは,自分自身の書きたい言葉を選び「書初め」の課題として取り組んでいましたが,やはり一人一人文字が異なるため,十分な指導が難しいと思いましたが,様々な工夫を凝らし解決の手立てとしておられました。子供たちは与えられたお手本を書くのではなく,自分で考えながら自分の思いを表現するという楽しさの一面を見出せたのではないかと思います。

近年,書写書道教育の停滞を危惧する記事を目にすることが多いですが,このように素晴らしい研究会が行われております。さらに多くの小・中・高校の先生方が参加されることを期待します。

連 盟 の あ ゆ み
連 盟 役 員 一 覧
連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させ
(昭和62年) る。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ [金沢大学教育学部書道演習室]
(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 **石川県書写書道教育連盟設立総会** [ホテル六華苑]
(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長]	三宅正敏
	[金沢市小学校教育研究会書写部長]	河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
	[金沢市中学校教育研究会習字部長]	大野重幸<金沢市立金石中校長>
	[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	佐藤政俊<金沢女子高校長>
	[石川書写の会会長]	山田泰正<鹿島町立越路小校長>
	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	法水光雄<金沢大学助教授>
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 兼 任	
副理事長	: 幼・保部 :	嘉門久直<森本幼稚園長>
	: 小学校部 :	森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>
	: 中学校部 :	松寺淳照<金沢市立森本中教頭>
	: 高校部 :	中山武久<津幡高校教諭>
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長> 木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課 :	
	[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事]	永井志津子
	[高等学校(芸術科書道)担当指導主事]	高沢幹夫

* 金沢地区

- : 幼・保部 : 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部 : 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 中学校部 : 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
- : 高校部 : 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
- : 障害児学校部 : 南 進 <県立養護学校教頭>

* 加賀地区

- : 小学校部 : 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>

- : 中学校部: 阿戸壯一郎<丸ノ内中教頭>
- : 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭>北室正枝<金沢西高講師>
- : 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

* 能登地区

- : 小学校部: 西野和代<天神山小学校長>福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
- : 高校部: 嚙喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

- : 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>
- : 副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
- : 会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
- : 研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>
- : 会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭>大坂育代<湯野小教諭>
- : 研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>
- : 調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭>西川真理<野々市小教諭>

11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会

～17・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》

12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12. 10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

1990. 5. 18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成 2年) 10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第3回理事会

1991. 2. 23 第4回理事会

(平成 3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10. 30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]

第6回理事会

1992. 3. 26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成 4年) 3. 30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

5. 28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10. 20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]

第9回理事会

1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行
(平成5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会
[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
第11回理事会

1994. 3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行
(平成6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]
第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]
第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行
1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行
(平成7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]
9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行

10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会[鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]
第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行
(平成8年) 4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行

11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]
第18回理事会

1997. 3. 『石川県書写書道教育』(第14号) 発行
(平成9年) 6. 25 第19回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第15号) 発行
11.21 第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]
第20回理事会

1998. 3. 『石川県書写書道教育』(第16号) 発行
(平成10年) 7. 18 第21回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第17号) 発行

11. 2 第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]
第22回理事会

1999. 3. 『石川県書写書道教育』（第18号）発行
(平成11年) 6. 16 第23回理事会 [六華苑]
9. 『石川県書写書道教育』（第19号）発行

10.19 第10回石川県書写書道教育研究大会[七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]
第24回理事会

2000. 3. 『石川県書写書道教育』（第20号）発行
(平成12年) 6. 9 第25回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』（第21号）発行

12.7 第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]
第26回理事会

2001. 3. 『石川県書写書道教育』（第22号）発行
(平成13年) 6. 9 第27回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』（第23号）発行

12.6 第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]
第28回理事会

2002. 3. 『石川県書写書道教育』（第24号）発行
(平成14年) 8. 8 第29回理事会 [六華苑]
10. 23 『石川県書写書道教育』（第25号）発行

12.5 第13回石川県書写書道教育研究大会[野々市町文化会館・菅原小学校]
第30回理事会 [野々市町フォルテ]

2003. 8. 27 第31回理事会 [六華苑]
(平成15年) 9. 27 「03書写書道教育研修会 I」 [蕪城小学校]
10. 18 「03書写書道教育研修会 II」 [松任市学習センター]

12.4 第14回石川県書写書道教育研究大会[金沢市西町教育研修館(金沢大学サテライトプラザ)]
第32回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

2004. 8. 10 第33回理事会 [六華苑]
(平成16年) 8. 27 「04書写書道教育研修会 I」 [蕪城小学校]
10. 9 「04書写書道教育研修会 II」 [蕪城小学校]
11. 10 「04書写書道教育研修会 III」 [蕪城小学校]
12. 『石川県書写書道教育』（第26号）発行
12. 1 県大会準備会

12.10 第15回石川県書写書道教育研究大会[松任市市民交流センター・蕪城小学校]
第34回理事会 [松任市市民交流センター]

石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

～基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育～

回	開催日	公開授業	配 念 履 歴	
			講 師	演 題
1	1990.11.19	金沢市立南小立野小学校2年 金沢市立野田中学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	久米 公先生 (文部省視学官・ 千葉大学教授)	「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
2	1991.11.18	野々市町立野々市小学校1年・6年 石川県立養護学校 (学校公開・クラブ活動等)	續木湖山先生 (帝京大学教授)	「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」
3	1992.11.18	金沢市立鳴和中学校1年	久米 公先生 (千葉大学教授)	「学習指導の最適化のために」
4	1993.11.11	金沢市立富樫小学校3年 石川県立金沢商業高等学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	田中東竹先生 (実践女子大学教授)	「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
5	1994.10.19	小松市立安宅小学校6年 小松市立女子高等学校1年	柳下昭夫先生 (東京家政大学講師・ 前教育課程審議会委員)	「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲 を高める書写書道教育のあり方」
6	1995.10.20	鹿島町立結路小学校5年 ・研究発表(養護学校)	浦野俊則先生 (二松学舎大学教授)	「漢字は生きている」
7	1996.11.21	金沢市立弥生小学校4年 石川県立中央高等学校2年次 ・研究発表(中学校)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「意欲を高めるための書写書道教育」
8	1997.11.21	加賀市立南郷小学校4年 ・研究発表(中学校・高等学校)	宮澤正明先生 (山梨大学助教授)	「実験を通して考える書写・書道」 —「手本が無くてかかえる」をめざして—
9	1998.11.2	内灘町立大根布小学校3年 ・研究発表(中学校・大学)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「これからの書写・書道教育の方向と課題」
10	1999.10.19	七尾市立天神山小学校5年 ・公開学習(幼稚園) ・研究協議	久米 公先生 (大東文化大学教授)	「書写・書道教育における今日的課題」
11	2000.12.7	【金沢勤労者プラザ】 ・パネルディスカッション ・研究発表		
12	2001.12.7	【根上町総合文化会館】 ・研究協議	町川 哲先生 (香川県土庄小学校教諭)	「書写指導における具体的実践にむけて」 ～香川県の実践をもとに～
13	2002.12.5	野々市町立菅原小学校6年 ・研究協議		
14	2003.12.4	【金沢市西町研修館】 (金沢大学サテライトプラザ) ・研究協議		

平成 16 年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

顧問 山岸 勇<石川県教育委員会教育長>

相談役 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成
福田教導 永井志津子 中山武久 林道子

会長 藤 則雄<金沢学院大学教授・前金沢大学教育学部長>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長] 加藤茂芳
[石川県私立幼稚園協会理事長] 源 通<妙源寺幼稚園園長>
[金沢市小学校教育研究会(書写代表)] 長井珠子<金沢市立内川小学校教頭>
[金沢市中学校教育研究会書写部長] ☆吉崎利成<金沢市立芝原中学校校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長] 村井加代子<県立金沢錦丘高等学校校長>
[石川県特殊教育諸学校校長会代表] ☆詠 節子<県立小松養護学校校長>
[石川書写の会会長] 細川 聰<羽咋市立西北台小学校校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 押木秀樹<上越教育大学助教授>
<前金沢大学教育学部助教授>

理事長 石浦義彦<県立金沢泉丘高校教諭>

副理事長

: 小学校部: 大浦 努<金沢市立森本小学校教諭>
北野勝彦<小松市立稚松小学校校長>
: 中学校部: 桶成好江<田鶴浜町立田鶴浜中学校教諭>
: 高校部: 林 昭悦<県立金沢中央高等学校教諭>
: 盲・弱・養護学校部: 尾小山輝子<県立盲学校教頭> [県特殊教育諸学校
教頭会代表]

監事 永江芳教<松任高校教諭> 帽子山瑞枝<和倉小学校教頭>

理事

* 石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] ☆中西外美<県教育センター指導主事>
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 江尻祐子<県学校指導課指導主事>

* 金沢地区

- : 幼・保部： 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部： 石野昌子<長坂台小学校教諭> 中川晃成<中村町小学校教諭>
- : 中学校部： 福島絹子<泉中学校教諭> 古本佳世<城南中学校教諭>
- : 高校部： 永江芳教<松任高校教諭>

* 加賀地区

- : 中学校部： 小座間美智子<山中中学校教諭>

* 能登地区

- : 小学校部： 帽子山瑞枝<和倉小学校教頭> 奥原せい子<櫛比小学校教頭>
- : 中学校部： 山田寿一 <中能登地方教育事務所長>
- : 高校部： 嶺喜代子<県立飯田高校教諭>
- : 盲・ろう・養護学部： 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長： ・ 中川晃成<中村町小学校教諭>
- : 副事務局長： ・ 岩田稚子<鳴和中学校教諭>
- : 事務局総務： ・ 八田和幸<内灘中学校教諭> ・ 水上真由美<金沢商業高校教諭>
- ・ 山口雅美<額小学校教諭> ・ 田中学<金沢伏見高校教諭>
- ・ 新谷幸一<小立野小学校教諭> ・ 柿木千鶴<蕪城小学校教諭>
- ・ 堀順一郎<菅原小学校教諭>

: 会計部：

- 部長・西尾恵美子<串小学校教諭> 副部長・山口雅美<額小学校教諭>
- 部員・山沢聡美<御幸中学校教諭>

: 研究調査部：

- 部長・八田和幸<内灘中学校教諭> 副部長・水上真由美<金沢商業高校教諭>
- 部員・西脇良樹<越路小学校教諭> ・ 柿木千鶴<蕪城小学校教諭>
- ・ 北村千恵<片山津小学校教諭> ・ 坂井雪絵<羽咋小学校教諭>
- ・ 木之下知子<材木町小学校教諭> ・ 堀順一郎<菅原小学校教諭>
- ・ 倉下真澄<金沢大学付属中学校講師> ☆ 間野清美<蕪城小学校教諭>
- ☆ 沢村麻由美<旭丘小学校講師>

: 会報部：

- 部長・田中学<金沢伏見高校教諭> ・ 副部長・新谷幸一<小立野小学校教諭>
- 部員・佃さえ子<松陽小学校教諭> ・ 北野京子<諸江町小学校教諭>
- ・ 寺井純子<直小学校教諭> ・ 岸瑞代<大聖寺高校講師>
- ・ 中辻育代<粟生小学校教諭> ・ 吉田美晴<中央小学校芳齋分校教諭>
- ・ 水谷清美<鳳至小学校教諭>

* 平成16年12月現在

石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局） 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
（1）研究会の開催
（2）会報の発行
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力
（4）講演会・講習会の開催
（5）調査研究
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名
事務局長 1名 副事務局長 若干名
（1）事務局には、次の六部を設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
（3）役員の出選と任期は、下記のように定める。
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。
（Ⅱ）役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。

〔附則〕

- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定
平成 2年 5月 18日 一部改定

中国品=古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品=画仙紙・色紙・各種書道額縁

書道用品専門店

文房四宝 文真堂

金沢市尾張町2丁目11の28 TEL 264-1836

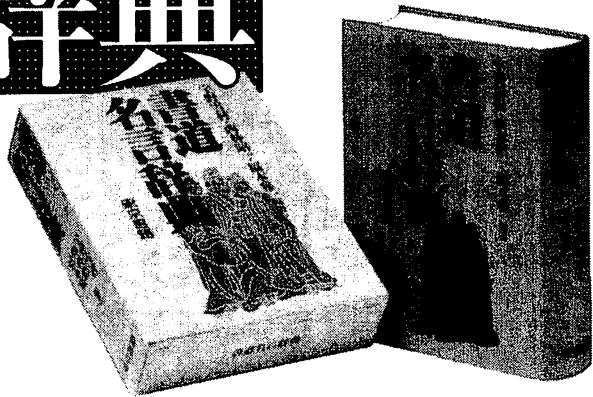
東京書籍

北陸支社:〒920-0918 金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
TEL.076-222-7581 FAX.076-232-2719
ホームページ… <http://www.tokyo-shoseki.co.jp>
東書Eネット… <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

書道 名言辞典

宇野雪村・西林昭一・福本雅一 編著
A5判/788頁/定価7951円(本体7573円)

書・篆刻・文房に関して、
中国・日本の書論・随筆・
詩などから名言・名句を集
め、やさしく解釈・解説し
た読む辞典。学書・指導・
鑑賞の指針となる初めての
の書の名言辞典。



技術と伝統・額縁と共に半世紀



株式会社 **大 冨**

本 社 〒729-3497 広島県甲奴郡上下町字上下1513-1
TEL (0847) 62-3517 FAX (0847) 62-4528
東京営業所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-16-5
TEL (0822) 42-3085 FAX (0822) 42-3251
福山営業所 〒721-0907 広島県福山市春日町6-14-24
TEL (084) 941-8161 FAX (084) 941-8048

額縁・衝立・屏風・掛軸 製造販売

練習用から作品用まで

四
墨

墨液

(練習用)
墨液
濃墨液



玄
宗

(作品用)

普通
中濃
濃墨
超濃



墨運堂 〒630-8357 奈良市杉ヶ町39-1
(0742) 26-5611

創業百年、絶え間ない研究の精華を放つ

油煙磨墨液 純松煙磨墨液

天衣無縫 松潤 書芸吳竹



紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨



作品用書道液

Kuretake

株式会社 吳竹
〒630-8670 奈良市南京崎町7-576
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

伝統的工芸品指定 熊野筆
高級書道用筆墨硯

(株) 久保田徳

筆匠 竹 嶋

〒731-4215

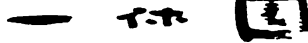
本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009 番別
東京 東京都台東区台東3-42-4
書道殿堂東京久保田号ビル



伝統的工芸品 熊野筆 製造
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター

株式
会社



本 社 〒730-0051 広島市中区大手町1-5-11 TEL082(543)2844
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-50 TEL0723(35)0605
東京営業所 〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央31-12-201 TEL045(942)4119
"アンテナショップ"
熊野筆センター広島店
〒730-0013 広島市中区八丁堀5-29 TEL082(222)1919

・因州産紙
・書道用紙
・洋紙板紙
・包装資材

資材商標



株式
会社

因州屋

〒680-0912 島取市南栄町155番地

TEL(0857)24-6611 FAX(0857)27-1811

E-mail insyuya@apionet.or.jp

高級刷版用紙 各種特注刷 器具製作
高級木製刷版 各種同梱・衝立

株式会社 **サン美術工芸**

933-0941 本社 富山県高岡市内免4丁目-6-33

TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3851

ホームページ: <http://www.media-pro.co.jp/~sanbi>

Eメール: san@p1.tconet.net.jp

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5

TEL 075 (812) 3318

平成17年度 光村図書版教科書完全準拠

●小学校書写 児童用教材

書写の練習 1,2年上下 3～6年刊 各320円(税込)

毛筆書写の練習 3～6年 年刊 各420円(税込)

●小学校書写 指導用資料(学校備品)

毛筆書写指導ビデオ(準拠外)全3巻 各9,975円(税込)

書写掛図(硬筆) 1,2年各1巻 各12,600円(税込)

書写掛図(毛筆) 3～6年各1巻 各16,800円(税込)

●中学校書写 生徒用教材

中学 硬筆練習帳 1年/2,3年全2冊 各350円(税込)

光村教育図書株式会社 〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-27-4
TEL.03-3779-0581 FAX.03-3779-0266

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-8202 金沢市西都2丁目92

TEL (076) 267-2077

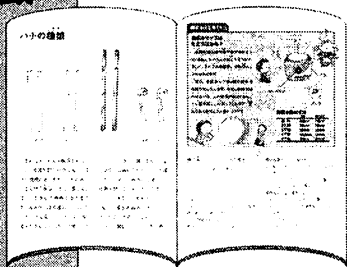
FAX (076) 267-2078

初心者のための和太鼓入門書



はじめての太鼓 よーいドン!

定価 600円(本体価格572円)



太鼓の種類からバチの持ち方、構え方、基本的なリズムパターン、簡単な練習曲まで、初めて太鼓にふれる初心者にもわかりやすく、豊富なイラストを使って解説しています。

※ご注文はFAXまたは郵送、E-mailにて財団法人浅野太鼓文化研究所までお申し込みください。なお、浅野太鼓ホームページでもお買い上げいただけます。



財団法人 浅野太鼓文化研究所
The Asano Foundation for Taiko Culture Research

〒924-0051 石川県白山市福留町586

TEL 076-277-1721 FAX 076-277-8777

E-mail asano@taiko.or.jp URL <http://www.asano.jp/>

新しい時代へ
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

AO 能登印刷株式会社

本社 ● 〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号

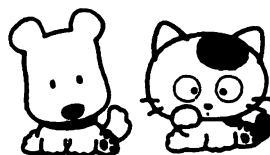
TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559

工場 ● 〒924-0013 石川県白山市番匠町293番地

TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016

グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社

学校教材・文具・事務用品



奈良教材文具店

白山市新田町10-3
TEL 076-274-6370
FAX 076-274-6372

文	溪	堂
新	学	社
光	文	書
教	育	同
日	本	標
		準



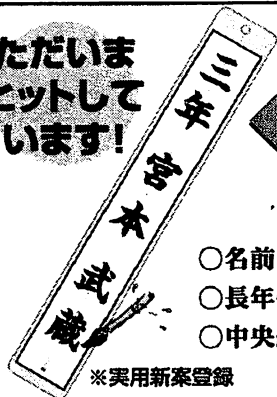
代理店

教材・教具・文具

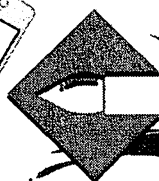
藤田商店

小松市新鍛冶町13の1
TEL0761-21-3278

ただいま
ヒットして
います!



書写の時間に 児童、一人ひとりの氏名の指導にピッタリ!



毛筆お手本ねーむ

ヤマガミの書道セットについてくる!

- 名前書きの指導にピッタリ
- 長年使えるパウチ加工
- 中央線も入って見やすい

※実用新案登録

有限会社 ヤマガミ共育社
〒921-8001 金沢市高島3-154
Tel. (076) 291-1250 Fax. (076) 292-8008
E-mail yamagami@e-zenken.com

あすを築く教育のいしずえ

北陸青葉

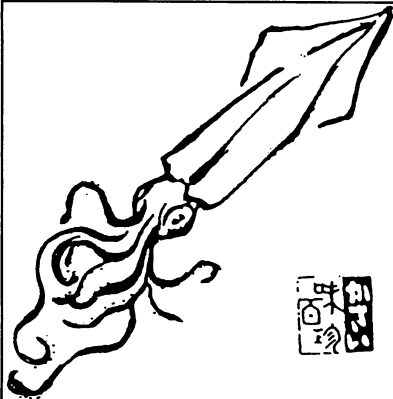
学校教材販売

有限
会社

本田教材社

書道セット
かきかたノート
石川書写の会編
コンクール用紙

金沢市寺町1丁目3-26
☎ (076)241-1339
FAX (076)241-7705



味のかさい

本社 / 〒921-8044 金沢市米泉町8丁目8番地
TEL (076) 247-2231
FAX (076) 247-3612
片町店 / 〒920-0981 金沢市片町1丁目7番17号
TEL (076) 262-9333
FAX (076) 262-9333

(株)津田精工

白山市旭丘1-4 TEL 076-276-1311

OA機器・事務器・文具・紙製品

百々商会

〒920-0202 金沢市木越1丁目69番地

TEL・FAX 257-2065

本・雑誌・文具・CD・楽器

知性と情操をおとどける

うつのみや

柿木島本店 / 金沢市広坂1-1-30 電話 076-234-8111

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書のエデュケーション・教材
 - 毎日の学習教材「はつらつ」
- 北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4

☎(076) 232-2425(代)

日本画・洋画

美術部

壁襖
貼製
工作
事部

屏額掛
風装軸

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

学校教材特約店

島野教材

代表者 島野英伸

〒923-0342 石川県小松市矢田野町の41
TEL(0761)44-2622 FAX(0761)43-2828

参考書・心理検査・各種教材

株式会社 布村教材社

〒920-0811 金沢市小坂町中35-4
TEL (076)251-1702
FAX (076)251-1701



お座敷料理・仕出し

かつ新

[KATSUSHIN]

代表 津田勝

〒924-0022 白山市相木町151-1 (JR松任駅北口通り)
TEL(076)275-1871(代) FAX(076)275-2239
<http://www4.ocn.ne.jp/~katusin/>



教材社

金沢・北安江

TEL 231-6773
FAX 231-6940

学校教材なんでも

書籍・文房具・教材・教具

粟津書店

粟津祐治

〒924-0855 石川県白山市水島町168
TEL 277-0303
FAX 277-2505

㈱ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
<http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm>
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市緒江町中丁179-3
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
営業時間 AM 9:00~PM 11:00

車両販売・三井住友海上火災保険代理店

(有)ケーティオート

加賀市湖城町2-345
TEL 0761-75-3615
FAX 0761-75-3614

月刊 ASOCCAR 掲載中!!

TOYO PHOTO STUDIO

東洋写真館

スタジオ撮影 ビデオ撮影 出張撮影
スクールアルバム コマーシャルフォト

金沢市彦三町二丁目五一五 〒920-0901

☎ (076) 231-6456

FAX (076) 221-1097

金沢紙商組合加盟店

取扱品 紙・印刷・事務機器・ハンコ

二木紙店

金沢市金石西3-7-9

TEL 267-0503 FAX 267-5271

FOOTBALL & BASKETBALL

Pro shop
N&S KANAZAWA

金沢市久安3-361

TEL 076-245-5510

HP <http://www.ns-sports.jp/>

書道、水墨画用品の激安専門店！

日本書道販売株式会社

ミドリヤ

画仙紙（紅星牌・福建紙・台湾紙・因州・伊予
半紙・料紙・和紙）

和筆（広島熊野筆）、唐筆（上海工芸）

和墨（呉竹・墨運堂・古梅園・開明）、唐墨

硯（端溪・老坑・歙州・澄泥・細羅紋）

印材（青田・巴林・寿山）、印刀（永字牌等）

色紙、短冊、和紙小物

額（書道額、デッサン額、水墨画用額）

表装、表装用品

★通信販売もしています

本店 石川県能美市五間堂戊46-6

TEL 0120-58-4344 FAX 0120-58-4346

営業時間 10:00~19:00

金沢店 石川県金沢市北安江4-18-12

TEL 0120-60-4344 FAX 076-223-4340

営業時間 10:00~18:00